

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|------------------|---------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ②我が国の言語文化に関する事項 | 課題が残る結果であった |
| ③A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④B書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ⑤C読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

もっとも正答率の高かった設問は、1(一)の話し合いの様子の一部より正しい文章を選択肢から選ぶ設問、もっとも正答率の低かった設問は、3(二)の条件作文の設問、もっとも無回答率の高かった設問は、3(三)ウの『したしむ』の正しい漢字を書く設問、もっとも無回答率の低かった設問は、1(一)、1(二)、1(三)、2一(1)、2一(2)、全て正しい文章を選択する設問であった。

分析

登場人物の相互関係について描写を基に捉え選択する問題では、正答率が全国平均を上回っている。ペアやグループを使って交流し読みを深めることにより、読解力がついてきたことがわかる。前半の問題では無回答率が低いが、後半の問題にかけて無回答率が高くなっているため、時間が足りなかったことが推定される。

最終問題の漢字の問題と条件作文の正答率に課題が見られた。漢字の問題は最終問題になっていたことから、無回答率が他の問題と比較して高い傾向にある。新出漢字や学年の漢字だけでなく、既習漢字を普段の生活の中でも積極的に使っていくこと、また読書活動の中で普段から漢字や文章に触れ、学習した漢字を楽しみながら読書に活かせるよう、読書活動を活発にする取り組みを今後も続けていく。

また条件作文では、『条件となる語句を入れて、限られた字数の中で要約する力』をつけるためにも普段の授業の中で、読む力とともに要約する力を育むよう、昨年度に引き続き授業方法の工夫に一層取り組む。

○●算数●○

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ①A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ②B図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④Dデータの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|---------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | やや課題が残る結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

もっとも正答率が高かった設問は、1(1)の4桁×1桁の計算問題、もっとも正答率が低かった設問は2(3)の果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの果汁の割合について正しいものを選ぶ設問、もっとも無解答率の高かった設問は、3(4)の例を参考にポイント数の求め方と答えを書く設問と、4(1)の示されたプログラムについて正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す設問、無解答率の低かった設問は、1(1)、1(2)最小公倍数を求める設問、1(4)85×21の答えが1470より大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ設問、2(3)であった。

分析

算数では、ほとんどの問題で無回答率が全国平均より低かったため、粘り強く考えじっくり問題に取り組めたと考えられる。毎年課題になっている記述形式の問題の正答率も、3(4)の問題では全国平均を上回っている。

しかし、4(1)に示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す記述問題では正答率が低いのに対し、類似問題の4(3)辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選択する問題は正答率が高い。選択問題だと正答がわかるが、記述問題になると説明することが難しいと考えられる。また、無回答率も高かったため、これからも普段の授業から自分の考えを式や言葉を使って説明したり、書いたりを育む取り組みを続けていく必要がある。

今回正答率が低かった問題は、2(3)果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの果汁の割合について正しいものを選ぶ選択問題である。わかりやすく言葉を簡単にして説明すると解ける内容だが、数学的用語に慣れていないため選択肢の内容が理解できず正答率が下がったと推定される。普段の授業からも数学的用語を使い慣れ親しむ必要がある。

○●理科●○

(領域ごと)

- | | |
|--------|-------------|
| ①エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ②粒子 | 概ね良好な結果であった |
| ③生命 | 概ね良好な結果であった |
| ④地球 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

もっとも正答率の高かった設問は、1(1)の見いだされた問題を基に観察の記録が誰のものかを選ぶ設問、もっとも正答率の低かった設問は、3(1)の光の性質を基に鏡を操作して指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ設問、もっとも無解答率の高かった設問は、3(4)の問題に対するまとめからその根拠を実験の結果を基にして書く設問、もっとも無解答率の低かった設問は、1(1)、1(3)、1(4)、1(5)の観察の視点を基に問題を解決するまでの道筋を構想し自分の考えをもち、その内容を記述する設問、2(2)(3)、メスシリンダーという器具を理解、正しい扱い方を身に付けているかどうかの設問、3(1)(2)、の日光は直進することを理解しているかどうかをみる設問であった。

分析

理科では無回答率がどの問題も非常に低く、時間内に取り組むことができた児童が多いことがわかる。理科に対して意欲関心が高く積極的に問題に取り組んでいると考えられる。また、問題の正答率も全体的に高い。日々の授業の中で理科の用語を使ったビンゴゲームや既習内容をクイズで復習するなど、全ての児童が楽しみながら学習できる工夫を取り入れていた。ただ言葉を覚えるだけでなく、言葉の意味を説明できるようにクイズの内容も意味を問うようにしていた。仮説実験では大事なところに焦点を絞り、予想・討論を丁寧に行ってから実験を行ってきた。

その中でも、今回正答率が低かった問題は、問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして記述する問題であった。図や資料からわかることを使って自分の考えを書く力が必要である。理科だけでなく、他の教科と共に条件にそって自分の考えを書く力をつける必要がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

一昨年度より低位層と高位層の割合の差が小さくなっていたが、今年度はその割合が大きくなっている。

前回の結果を踏まえて、自校では点数だけで判断するような学力ではなく、課題解決のための学び方を大切にする授業づくりを行い、意見交流や書き方の指導を重点的に行ってきた。その結果、記述型の問題の正答率が全国平均を上回るようになってきた。自分の考えをわかりやすくまとめる力がつきつつあることがわかる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

国語は H3 1 年以降、エンパワー層の割合が全国の割合より下回っていたが今年度は上回った。

算数は H2 9 年度以降、エンパワー層の割合が全国の割合より下回っているが、今年度は昨年度の結果よりも割合が上回った。

国語・算数ともに昨年度と比べ低位層が増加し、高位層が減少しており、差が開いている。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

本校の国語では、最終問題の漢字の問題と条件作文の正答率に課題が見られたことから、読書活動を活性化するために様々な事に取り組んでいる。

家庭での読書推進として家読（いえどく）の取り組みを行った。長期休暇を利用して、子どもと一緒によに本を読む、子どもに読み聞かせをする、子どもに読み聞かせをしてもらう、いっしょに図書館に行く、などの活動を行い、記録カードに記入する。提出されたワークシートから子どもや保護者の感想を通信としてフィードバックしていき、そこから更なる読書の輪が広がることを期待している。

読書の秋にちなんで、読書活動のきっかけとなるよう「読書タワー」にも取り組んでいる。読んだ本の題名と学年・組・氏名を書いたカードがタワーの壁の一部となり、クラスで本を読めば読むほど、タワーが高くなっていく。子どもたちが目に見える形で楽しみながら読書に取り組めることを狙っている。

担任交換読み聞かせを行い、普段読み聞かせをしてもらっている先生ではない人から、とっておきの一冊を読み聞かせしてもらう取り組みも実施。普段の生活の中でも、読書貯金で読んだ本の記録を残す、タブレットを使って読んだ本の交流をするなど読書活動を活発にしていく工夫をしている。

読書活動の中で普段から漢字や文章に触れ、学習した漢字を読書に活かすだけでなく、語彙力を豊かにし自分の感情や考えを表現する力も育んでいきたい。

条件作文では、条件である語句（キーワード）を入れて、限られた字数の中で要約する活動を取り入れている。普段の授業で「めあて」が「ふりかえり・まとめ」とつながるようにし、「めあて」に対する「ふりかえり」を書く意識や自力でまとめを書く活動をしている。またペアやグループから全体に交流することで、自分の考えを深めている。授業の中の大切な内容を自分で考え、整理することで、授業のふりかえりでは学年に応じた文章量でまとめることができている。

これらの取り組みや児童の様子をふまえて、自分の意見を伝える力が育まれてきたことがわかる。この力は、国語・算数・理科を含む全ての教科に共通して必要な力である。しかし、意見や考えを適切に文章で表すことに対して難しく感じる児童がいるため、今後は児童の書く力を育ていけるよう、一層授業方法の工夫を行っていく。